スタンダードチャータードPLC
2011年度業績予想

2011 年 12 月 13 日

（これは、ロンドンにて 2011 年 12 月 8 日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです。）

スタンダードチャータードPLC（その子会社を含む。以下、「当行グループ」または「グループ」と称します）は、2011年度12月期年次会計報告に先立ち、アナリストおよび投資家の皆様を対象として説明会を予定しておりますが、当報告書においては当該説明会にてカバーされる詳細について述べさせていただきます。

当行グループCEO ピーター・サンズのコメントは、次のとおりです。

「スタンダードチャータードは、本年度も好決算の達成に向かっています。収益成長は引き続き底堅く十分に分散されており、当行グループの事業全体における高レベルの活動に下支えされています。将来の収益の成長基調を支えるための投資を継続しており、クレジット環境は、当行が事業展開する地域全般で依然として相対的に良好です。当行グループは引き続き、銀行業の基礎、極めて強固なバランスシートの維持、および規律ある事業戦略の実行の継続に重点を置いています。一貫した業績、バランスシートの底堅さは、市場と格付け会社両方により認められています。当行グループは、金融危機の勃発以後、格付け会社3社すべてから格上げされました。欧米では先行きの不透明感が強まる中、当行が事業展開するアジア、アフリカ、中東市場の成長の見通しは損なわれていません。」

以下、比較数値については、特に明記のない限り、すべて昨年度のものと比較して作成されております。

グループ

グループの業績は、第3四半期の中間経営報告においてご報告致しましたとおり、引き続き力強く推移しています。以下は、英国銀行税の影響を除いた見方になります。

アジアの為替レートは米ドルに対して続落しておりますが、当行グループは困難な市場環境において堅固なパイプラインを確実に実行し続け、グループの2011年度の収益は現在、2桁を僅かに下回る水準で成長する見通しです。第3四半期の中間経営報告の発表時点以後、アジアの為替レートは、1～5%ほど更に下落しました。

両事業部門は、良好な成長基調を見せています。ホールセールバンキング部門の顧客収益は、2桁前後で成長する見込みであり、コンシューマーバンキング部門の収益は、2桁成長となることが

予想されます。

収益成長の源は、商品別・地域別ともに依然として十分に分散されています。インドの収益は、引き続き国内の事業環境の影響を受けています。上半期に比べその割合は低く抑えられたものの、本年度の収益は2010年の水準を下回ると見られます。韓国の本年度の収益は、前年の水準をわずかに上回る見込みですが、下半期の業績は鈍化しています。先週グループは韓国における自発的再編計画に着手したことで、約5千万米ドル以上の費用が発生し本年度の経費に影響する見込みですが、最終コストは参加者レベルに左右されます。

インドおよび韓国の収益の実績は、特に好業績が予想されるシンガポール・香港・中国・ボツワナ・バングラデシュ・パキスタン・インドネシアなどの多くの市場における収益の2桁成長により、十二分に相殺されます。当行が事業拠点を置く市場で競争が激化していますが、ホールセールバンキング部門を中心に事業を見直して、市場シェアを高められる好機は多数存在するとの見方を維持しています。

グループ全体については、純金利収入は2010年度の水準を若干上回る予想です。下半期の資産収益は、引き続き幾分圧迫されています。複数の市場において競争の激化を経験していますが、同期の負債サイドの利鞘は小幅に増えています。

グループは、厳格なコスト管理を継続しており、その結果として本年度の収益の成長は引き続きコスト増加率を上回っています。2012年に向けて収益の成長基調を支えるために、両事業部門への投資を継続しています。従業員数は、特にコンシューマーバンキング部門、中国・香港・韓国・シンガポール・インドのオペレーションハブの増員を中心に、2010年度末よりも約2,000名増加する見通しです。

2011年度の減損前利益は、前年度から2桁の成長を達成する見込みです。

両事業部門のアセットクオリティ（資産の質）は依然として良好で、本年度の融資減損額は現時点で、当行グループの多様なポートフォリオ、事業展開する市場の景気動向、規律あるリスク管理手法の継続を反映して、前年度の水準を下回る見込みです。

当行グループは、税引き前利益が2桁成長を達成すると予想しています。2011年度のグループの実効税率は、29パーセント前後となる見通しです。

バランスシートは、財務諸表上問題のある資産区分へのエクスポージャーを極力限定し、引き続き分散化されたものとなっています。当行グループは、ポルトガル・イタリア・アイルランド・ギリシ

ャ・スペインのソブリン債への直接投資はありません。欧州のソブリン債への直接投資は微々たる水準です。グループは、資産・預金比率は良好で、グループは引き続き預金の流入を見受けています。融資はその成長を厳格に管理し、ターゲットとされるセグメントと地域で行われています。

グループは強固な資本力を保持しており、本年度のコア Tier 1 比率は最近のアジア通貨安の影響などに拠り、半期の水準を若干下回る見通しです。

リスク資産（RWA）成長率は、前回の見通しとほぼ変わらない水準となっています。グループは、リスク資産の成長に引き続き献身してまいります。

当行グループは、底堅い資金構造を有しており、10 月に成功を収めた 2 件の債券発行からも明らかのように、グループ名の信用が強固であるため引き合いはありますが、今後数年間で満期予定の貸出案件へのリファイナンスは極めて限定的されたものとなっています。引き続きインターバンク取引においても、資金放出ポジションを保持しています。

コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門は、引き続き順調な業績を呈しており、本年度の収益は 2 桁の伸張率を示す見通しです。ウェルスマネジメント事業を中心に減速の兆候がいくつか出現していますが、これは投資家心理が欧米で発生した出来事の影響を受けていることに拠ります。それに加えて、ここ数ヶ月におけるアジア通貨の為替レートの下落基調を背景に、外貨換算に幾分影響が現れています。

収益は、多数の地域が順調な業績をあげているため、十分に分散化されています。とりわけ 2010 年に投資を行った地域である香港・シンガポール・中国・マレーシア・インドネシアは、本年度において堅調に推移しています。

事業面においてはでは、住宅ローン事業の収益は引き続き利鞘の下げ圧力に拠り影響を受けており、伸び率は前年比で 1 桁台前半にとどまる予想です。預金収益は、利鞘の拡大と残高の順調な増加を反映して 2 桁の伸びを示す見込みです。

第 3 四半期の中間経営報告に記載のとおり、ウェルスマネジメント事業には、投資家心理の冷え込みに拠る影響が及んでいます。そのため、ウェルスマネジメント事業の収益は、本年度は前年比で 2 桁の成長率を示すと思われるものの、下半期は上半期の水準を下回ると見られます。投資家心理の改善はもとより、欧州の債務危機が解決に向けて僅かなりとも実質的な進展を見せなければ、ウェルスマネジメント事業の目先の売上回復は見込めない状況にあります。

クレジットカード事業・個人向け融資事業の収益は、特に香港・韓国・シンガポールにおいて無担保事業で厳選的な成長を続けており、2 桁成長を達成する見通しです。

中小企業向け（SME）融資事業の収益は、韓国・香港・シンガポール・中国が特に好調に推移していることから、為替およびキャッシュマネジメント事業が原動力となり、前年比 2 桁の伸張率を示す見込みです。

当行グループはコスト管理に対して引き続き厳格な手法を採用しています。下半期に投資を加速させました。本年度は全体として、中国・香港・マレーシア・ナイジェリアを含む多数の地域の 35 店舗以上の支店において、1,600 名超の増員を予想していますが、そのほぼ半数を中国が占めています。システム構築を強化して、マーケティングの支出を拡大しました。また、コスト基盤には、韓国の事業再編に伴う、約 5 千万米ドル以上の引当金の計上が含まれています。

本年度の収益成長は、コスト増加率を上回る予想です。

下半期の融資減損額は、保有融資資産の規模・構成、および経過期間の変化に沿って増加しています。コンシューマーバンキング部門のクレジットクオリティ（信用の質）は依然として良好であり、先行指標は低水準にとどまっているため、本年度の減損費用は、前年の水準を下回ると予想されています。減損費用については、下半期も引き続き融資資産の売却が順調に進んでいますが、上半期を中心とする多数の保有融資資産の売却が追い風となりました。

ホールセールバンキング部門

ホールセールバンキング部門は、引き続き既存顧客層と拠り親密な関係を構築しており、大変好調に推移しています。

同部門の収益については 1 桁台後半の成長が見込まれていますが、その中でも顧客収益は引き続き総収益の約 8 割を占めており、前年比で約 2 桁の成長が見込まれます。

同部門のコア事業であるトランザクションバンキング、融資および為替業務で構成される商業銀行サービスの業績は順調に推移しており、その収益は顧客総収入の 5 割以上を占めています。

トランザクションバンキング事業の収益は、キャッシュマネジメントとトレードファイナンス両事業の好業績を受けて、前年比で 2 桁と力強い成長を見せると予想されます。トレードファイナンス事業は、平均残高が堅調に伸び続けており、多数の地域で金利改定を行ったことから、下半期の利鞘

は僅かに拡大しました。キャッシュマネジメント事業は、若干の利鞘回復に加えて、引き続き平均残高の高い伸びの後押しを受けています。

本年度第 4 四半期のコーポレートファイナンス事業の取引の執行は、市場環境の影響を引き続き受けています。それでもなお、本年度の収益成長は、1 桁台半ばと前年の水準を上回っています。

ファイナンシャルマーケッツ事業の取引量は、為替および金利商品を中心に順調な成長を持続しており、トランザクションバンキング事業のフローが原動力となっています。ファイナンシャルマーケッツ事業の顧客収益は依然として堅調で、前年比で 1 桁台半ばの成長率となることが見込まれます。

自己取引の総収益は、前年の水準を下回る見込みです。プリンシパルファイナンス事業は、2011 年にマクロ経済環境の影響を受けており、したがって実現額は前年の水準を大幅に下回っています。ファイナンシャルマーケッツ事業は、コモディティ、為替および金利が特に好調であり、2 桁の収益成長を達成しています。しかしながら、ALM は前年の水準を僅かに下回る予想です。

ホールセールバンキング部門のコストは、人材とシステム構築両方への投資を継続しているものの、厳格に管理されています。本年度の収益成長はコストの増加率を若干上回る見込みです。

下半期の融資減損額は現時点では上半期の水準以下で推移していますが、融資減損額の水準は、2 月末まで最終的に決定いたしません。本年度の融資減損は、前年の水準を上回る見通しです。

早期警告指標は、インドで講じた予防的措置などに拠り下半期に上昇しましたが、これらの勘定のいずれも重大な減損が生じるとは見られません。これまでのところ下半期に新たに重大な引当金は発生していませんが、対外クレジット環境を引き続き注視しています。

最後に

当行グループは、規律ある事業戦略の実行を続けており、両事業部門における良好な成長基調に拠り、2011 年度の好業績の達成に向けて順調に進んでいます。収益は、商品・顧客セグメント・地域別に十分に分散されています。グループの資本力と流動性の状況は引き続き強固であり、リスクおよびコストを徹底的に管理しています。欧米では先行きの不透明感が強まる中、当行が事業展開するアジア・アフリカ・中東市場の成長見通しは損なわれていません。

本年度業績予想に関するカンファレンスコール（録画・グループ財務最高責任者 リチャード・メディングス主催）は、当行ウェブサイト（http://investors.standardchartered.com）で生放送される予定です。視聴ご希望の方は、http://investors.standardchartered.com（説明会開始時間：10:00～GMT）へアクセスしてください。また、説明会終了後、webcast および podcast にて録画をご覧になれます。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Piotr Zajac, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 6454
Ashia Razzaq, Head of Investor Relations, Asia +852 2820 3958
Jonathan Tracey, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 7613

日本語での問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行
コーポレート・アフェアーズ部
Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311
Ca.Japan@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できると思われる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報に拠り内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。